

所蔵品展 No.170

作品の「まわり」に目を向けてみたら／
コレクションでみるシュルレアリスム

Focus on the Paratext of Artworks / Surrealism in Japan: Works from the Collection

会期： 2026/5/30（土） ～ 7/12（日）
 休館日： 月曜日（祝日は開館）
 開館時間： 9時30分～17時00分（入館は16時30分まで）
 観覧料： 一般：210円（160円）／大学生：100円（80円）

※（ ）内は、20名以上の団体料金。

※18歳以下の方は観覧料が無料。下関市と北九州市在住の方で、65歳以上の方は半額免除。（いずれも公的証明書の提示が必要）

● 作品の「まわり」に目を向けてみたら

美術作品の来歴や修復歴、額装や表装、作品の裏側など、作品の「まわり」に注目。狩野芳崖、岸田劉生らの作品15点で、コレクションの新たな魅力を紹介します。

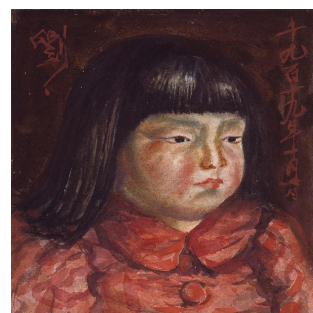
● コレクションでみるシュルレアリスム

アンドレ・ブルトンの『シュルレアリスム宣言』（1924年）から100年あまり。現代においてシュルレアリスムはどのような意味を持ちうるのか――。

桂ゆき、瑛久、植木茂らのシュルレアリスムの特徴を示す作品や、下関市豊浦町出身の堀晃、早鞆高校で指導した矢部桂一郎などの創作を紹介します。

● 19世紀末ポスター ※5/30（土）～6/28（日）まで

今年度冬の特別展「ミュシャ展 アールヌーヴォーの女神たち」に先駆けて、当館で所蔵している西洋の19世紀末ポスターを紹介します。ミュシャ3点、ロートレック2点を含む10点を展示します。また、特別展と連動して《「美しき女庭師」のためのカレンダー》の世界観を体感できる短編映像を展示室で上映します。



岸田劉生《外套の麗子》1919年



堀晃《鳥への儀式》1981年

関連催事

● ギャラリートーク

- ① 内容： 19世紀末ポスターについて、当館学芸員がお話しします。
 日時： 6月6日（土） ①11：00～ ②14：00～（各約30分）
- ② 内容： 作品の「まわり」／シュルレアリスムのコーナーを中心に、当館学芸員がお話しします。
 日時： 6月21日（日） ①11：00～ ②14：00～（各約30分）

※ 備考： 申込不要。いずれも当日の所蔵品展観覧受付が必要。



過去のギャラリートークの様子

下関市立美術館

Shimonoseki City Art Museum
 （担当）所蔵品展170：渡邊、片岡

〒752-0986 山口県下関市長府黒門東町1-1
 TEL：083-245-4131 FAX：083-245-6768
 Mail：kibijuts@city.shimonoseki.yamaguchi.jp
 HP：https://www.city.shimonoseki.lg.jp/site/art/